

2年ぶりの現地開催！タイ・サトゥーンジオパークで開催される国際会議に室戸高校生が参加します

9月5日～10日までアジア太平洋地域のジオパークが一堂に会するシンポジウムに、室戸高校生3人(1年2人、2年1人)と参加します。

2020年から新型コロナウイルス感染拡大の影響で、国内外のジオパークの会合はすべてオンラインで開催されてきました。世界中に広がるネットワークを活用して各地域が事業を展開しているジオパークにとって、他地域のジオパークでの活動状況を現地で直接見聞きできないことは、大きな変化でした。

今回ついにタイ南部のサトゥーンユネスコ世界ジオパークで実施される、アジア太平洋地域ジオパークシンポジウム (APGNシンポジウム) が現地開催されることになりました。そこに室戸高校生3名も参加し、参加生徒が継続して行っている防災の取り組みを発表する予定です。その発表準備を一緒に進めています。

オンラインでも現地開催でも、準備することや発表する内容は同じです。しかしタイ現地で開催される会合に参加するためには、現地の気候や文化を調べ、どんな準備が必要かを考えるプロセスが増えます。室戸とも日本とも全く異なる場所に滞在して、直接その町の生活を生徒たちの目を通してみることで、現地の方やシンポジウム参加者とどうにかして意思疎通を取ることによって得られる経験の価値は、オンライン参加とは比べものになりません。その報告はまた次号で行います。



知ってる？ジオパーク

外来生物ウチワサボテン

Vol. 164

室戸ジオパーク推進協議会
地理専門員
なかむら あきふみ
中村 昭史



外来種は「人為的な導入により、その自然分布域の外に生育または生息する生物種」(環境省…一部略)とされています。動物類の外来種は移動して生息域を広げるし、かみついたり毒をもつものなど人間に害を加える種もいるので、早急な対策が求められます。一方で、植物の外来種は目立ちにくく、気づかぬうちに繁茂してしまったり、遺伝子レベルで交雑が進んでいたりして、専門家でなければ判断が難しいものもあります。農作物や工業原料など、人にとって利となる外来種もあります。すでに多くの外来種が国外・地域外から入り、定着しているものも多いことから、元々の生態系に与える影響や、人や農業などの産業に与える被害の大きいものから優先順位をつけて対策することが求められています。

さて、今回の怪獣映画のようなタイトルですが、ウチワサボテンは生態系被害防止外来種リストで重点対策外来種となっており、優先度高めの植物です。アメリカ大陸を起源とし、乾燥した環境でも生育でき、ガラパゴス諸島では12mほどまで成長するものもあります。メキシコでは国旗にも描かれる国民的植物です。もちろんそうした地では外来種ではありません。日本では、人の手によるものか鳥が種を運んだのかなど、はっきりした原因はわかっていませんが、海岸沿いの温暖な気候の地域ではよく見かけるようになっていきます。室戸でも室戸岬の東海岸で拡大しており、中には2mを超えるほど成長しているものもあります。切れ端からでも再生する旺盛な繁殖力を誇ります。

遊歩道に飛び出して危険であることや、国定公園という生物多様性の保全が優先される場所であることから、室戸岬でのウチワサボテンの駆除は喫緊の課題です。今は市民がメンバーとなった室戸ジオパークの「まもるチーム」が駆除を行っており、一部力メなどの爬虫類用のえさとして商品化する取り組みなどにつなげています。ただしサボテンの拡大に比してメンバーの数は少なく、作業をこなすには人手が足りておりません。また、トゲを防ぐ手袋や刈るためのハサミやノコギリ、使い古しの米袋、室戸市指定のごみ袋、運ぶための輪車なども必要です。参加や道具の提供等、その他どんな形でも結構です。ので、ご協力いただける方は推進協議会のほうにご連絡ください。今後の活動日程は室戸ジオパークのHPやSNSでお伝えする予定です。



木質化したウチワサボテンの駆除作業